

早稲田大学大学院日本語教育研究科

博士論文概要

論文題目

「意思・希望」表現における
丁寧さと「私的領域」との関係

氏名

李承禧

2006年9月

1. はじめに

修士論文では、「丁寧さと聞き手の私的領域に関する考察」をテーマとして、「意思・希望」表現を中心に研究を進めた。この研究は、個人のアイデンティティに深くかかわる「私的領域」鈴木（1989）に属する「意思・希望」引き出すために、日本語母語話者と韓国人日本語学習者はどのような表現を用いているのか、について調査し分析したものである。これらの調査を基に、失礼にならない表現や、韓国人日本語学習者の問題になりやすい表現の特徴などについて考察を行った。さらに、相手の「希望」を引き出す表現である「～たい」は、使用方法により失礼さを回避できる場合もあること、また相手の「意思・希望」を引き出す時には失礼な感じを少なくするために、何らかの工夫が必要であり、その工夫についても調査・分析するなど、これらを具体的に明らかにすることができた。このような結果から、待遇表現としての「意思・希望」表現の「適切さ」、言い換えれば失礼にならない表現というのは、「敬語」の使用よりも、むしろ「聞く事柄の適切さ」や「表現の適切さ」が重要であり、その「適切さ」によって本当の意味で丁寧であるかどうか判断できることが分かった。

このように失礼にならない相手の「意思・希望」を引き出す表現について詳細な考察を行ってきたが、今後さらにその範囲を拡大して、自分の「意思・希望」を述べる時に用いられる表現である「～（し）たいと思う」について考察を進める。自分の「意思」や「希望」を表現する時に、「私はこうしてほしい」、「私はこうしたい」、あるいは「私はこうしたいんです」のように、自分の「私的領域」に位置する事柄を剥き出しにして相手に伝えようと、おそらく相手はその発話から「不自然さ」や「強い感じ」、また「幼い」印象を持つのではないだろうか。このことについては、母語話者のインタビューなどで検討する必要がある。そこで、このような印象を無くすために、「～たい+と思う」というような表現を用いることが多いのではないだろうか、など明らかにしなければならない課題がある。

韓国語では、このような場面の発話において、日本語の「～たい」に相当する韓国語의 싶다 [ʃipta] という表現をほとんど使用することなく「希望」を表していることが分かる。このようなことから、この表現を適切な場面で使用することは韓国語母語話者にとっては難しいことが推測される。

2. 研究内容と研究目的

これまでに報告されている「～たいと思う」に関する研究を調査したが、その中で代表

的な例を示す。森山（1992）は、文末思考動詞である「思う」を中心に、文末に「思う」が使われている様々な用例により、文の意味としての主観性や客観性について考察を行っている。また、主観明示の機能と談話スタイルという観点から「～たいと思う」について分析を行い、公的な場では一個人の主観的な内容の発話は、一個人の意見としてマークし、個人的な意見であるということ自ら断ることで、主張を控えめにすることが望ましいとしている。さらに、公的な文体、また公的な場面での発話において、控えめに言う場合は、必然的に丁寧体が使用されることになるため、社会言語学的な観点を含め、待遇表現との関係もさらに検討する必要があると述べている。また、徐（2001）は、「～（し）たい」「～（し）たいと思う」に埋め込まれることによって生じる新たな意味機能として、「～（し）たいと思う」で示された行為が遂行可能なものだと判断される場合には、希望表明形式「～（し）たいと思う」も意志表示の機能も持ちうるとしている。これらは、「私的領域」の中で自分側の事柄を扱ったものであるが、これを自分側の「私的領域」として捉えて研究している例はほとんど見られない。そこで、本研究では、自分側の「私的領域」における「意思・希望」表現について考察を行う。

この「～（し）たいと思う」という表現の有無によって、発話、または文章の全体的な内容や意味が変わってしまうことは少ないと考えられるが、少なくとも印象が変わることはあり得るであろう。また、この表現によって「丁寧さ」を制御、調整することが可能であれば、この表現の適切な使用によって、「丁寧さ」を表すこともできる。

このようなことから本研究では、

- ① 「意思・希望」表現と「丁寧さ」との関係
- ② 「～たいと思う」で表される「丁寧さ」とは何か

を明らかにすることを目的とする。

日本語母語話者は自分の「意思・希望」を相手にどのように表現しているのかについて、その傾向を調査して分析するが、どのような場面でどのように使用しているのか、その使用傾向や特徴についても合わせて考察を進め、「意思・希望」表現と「丁寧さ」との関係を明確にする。さらに、「表現主体」の「意思・希望」を表す時に使用される「～たいと思う」が「丁寧さ」を感じさせる要素は何かについて考察するとともに、この表現の使用場面や多様される文脈の条件などについても傾向を導き出すことを、本研究の目的に加えたい。

この表現は韓国語には存在しない日本語特有の表現であることなどから、韓国人日本語学習者がこの表現を理解し、適切な場面で使用しているとは言い難い。このため、「～（し）

たいと思う」という表現の使用上の制約や特徴を明らかにして、その傾向を掴むことは、日本語学習者がこの表現を学ぶ際に理解を助ける手がかりになると考えられる。

3. 研究方法

本研究では、徐（2001）の「希望表明形式の意思表示の機能」を援用し、「～（し）たいと思う」という表現を中心に分析と考察を進め。この分析に当たっては、まず、市販の文例集から例文を抽出して、その例文をもとに、どのような文脈で「～（し）たいと思う」という表現を使用しているのかを分析するなど、丁寧さとの関係を探ることから始める。次にその知見を生かし、生のデータとしてE-メール文を分析資料とし、実際の使われ方や丁寧さとの関係について同様に分析と考察を行う。さらに、文例集から得られた結果と、E-メール文での実際の使用方法にはどのような違いが見られるのかなども合わせて比較検討を加える。最後にこれらを「待遇コミュニケーション」蒲谷他（2003）¹の観点から分析を行うために、日本語母語話者にインタビューを行い、「表現主体」の立場だけでなく、「理解主体」の立場としての意見も収集する。このように、表現された「意思・希望」表現を受け取る側（理解する側）の理解、認識についても調査することで、この表現に対する「丁寧さ」の全体像が見えてくるのではないかと考えている。

3.1 対象とした分析資料

ここでは分析の対象とした（1）文例集の例文、（2）E-メール文、（3）「～たいと思う」に関するアンケート、（4）「当然性」が高い場面でのアンケート、（5）「日本語母語話者によるインタビュー」の5つの資料について説明する。

- （1）文例集は、『スピーチ・あいさつ事典』、『すぐ使える手紙・はがき百科』、『手紙の書き方実例辞典』、『挨拶・通知・案内・招待状の書き方』の4冊を用い、その中の例文を使用した。
- （2）E-メール文は、都内に勤務する研究員（主任、年齢49歳、男）が、2003年1月～2005年12月（3年間）に送受したメール17989通のうち、「たいと思う」が含まれるメール2096通（12%）の中から、300通を選んだものである。
- （3）「～たいと思う」に関するアンケートは、日本語母語話者を対象として60人に実施し、その内容は、(i) 披露宴の招待状、(ii) お歳暮のお礼状、(iii) 年賀状、(iv) 就

¹ 待遇コミュニケーションの考え方については蒲谷他（2003）を参照。

職の通知のはがき、(v) 部下から上司への Eメール、(vi) 発表会での司会の言葉である。この6つのアンケートの文例を読み、その文例に一番丁寧だと感じる表現を、回答例として与えた4つの表現の中から選択して、その理由の記述もお願いした。

(4) 「当然性」²が高い2つの場面、I. 図書館に対する「希望」を述べる場面と、II. 授業に対する「希望」を述べる場面を設定しアンケートを行った。設定場面Iの対象者は日本語母語話者で、10代～60代の男女の50人、職業は、大学学部生(13人)、専門学校生(8人)、会社員(25人)、その他(4人)であった。設定場面IIの対象者は日本語母語話者で、10代～20代の男女の100人、職業は、大学学部生(100人)であった。

(5) 日本語母語話者によるインタビュー調査は、6つの設問の基本となる表現(文例集などに用いられている表現)を見せて、読み手(理解主体)が、その表現から受け取る印象、感じ方などについて自由に話してもらった。インタビュー調査の対象者は、20代から30代の日本語母語話者10名で、職業は、会社員が5名、日本語教師が5名であった。

3. 2 文例集の例文とEメール文のアンケートの分析の観点

分析にあたっては、まず最初に、「～(し)たいと思う」、「～(し)たいと存じる」などが含まれている例文を抽出してから、これらの表現はどのような条件を満たした時に使用されているのか、それはどのような条件であると同時に「丁寧さ」とは関係しているのか。また、この「～(し)たいと思う」という表現の使用理由を探るためには、これらの表現の代わりに使用可能な表現、例えば、「動詞+ます」あるいは「動詞+たいです」に置き換えた場合に、その文の意味は変化するのか、それとも、意味の変化は生じないが不適切になるのかなどについて分析する必要がある。また、この不適切さが「丁寧さ」と関係があるのか。さらに、「～たい」の前で使用される動詞が特定されるなどの特徴は見られるのかなどを調べるために、以下のような分析項目を設定して考察を進める。分析にあたっては、「動詞+ます」、「動詞+たいです」、「動詞+たいと思います」の表現が可能であるかの判断については、まず、筆者が行った後、日本語母語話者にも判定を依頼して、異なった判

² 「当然性」という概念について「ある」、「なし」で捉えず、「当然性」を高低のレベルで捉える。例えば、「ウエイトレスにお水のおかわりをする」ことや、「教師に授業に係るレポートのチェックを頼む」などの行為は「当然性」が高いと捉え、「ウエイトレスにタバコを買ってきてもらう」ことや「教師に借金の保証人になってもらう」ことなどは「当然性」が低いと捉える。[例文は蒲谷他(1998)]

定をした部分については両者が議論することで、その正確さを向上させた。

- (1) **分析項目 1** 文章の種類 (案内状、はがき、招待状、手紙など)
- (2) **分析項目 2** 上下関係 (上 → 下、下 → 上、同一)
- (3) **分析項目 3** 人数 (一人 → 一人、一人 → 多人数)
- (4) **分析項目 4** 使用場所 (文中、または文末)
- (5) **分析項目 5** 「動詞+ます」(「動詞+ます」の形に言い換えが可能であるか)
- (6) **分析項目 6** 「動詞+たいです」(「動詞+たいです」の形に言い換えが可能であるか)
- (7) **分析項目 7** 「動詞+たいと思います」(もともとこの表現が使用されている例であるが、不自然ではないのか)
- (8) **分析項目 8** 「～たい」の前で使用された動詞
- (9) **分析項目 9** 「希望」に対する決定権は誰にあるのか
- (10) **分析項目 10** 決定事項 (この「希望」はすでに決定されている事項であるのか)
- (11) **分析項目 11** 表現の出現位置 (前文、主文、末文など、どの位置に現れているか)
- (12) **分析項目 12** 他の表現方法 (他の表現が可能であるのか)
- (13) **分析項目 12** 韓国語の場合 (韓国語に訳す場合、どのような表現になるのか)

4. 1 文例集の例文、E-メール文の分析結果の比較

4. 分析結果

ここで、今回行った文例集の例文とE-メール文の分析結果の比較を一覧として示す。

分析項目	文例集		E-メール	
	Yes	No	Yes	No
(1) 「動詞+ます」、「動詞+たいです」、「動詞+たいと思います」の3つの表現のすべてが使用可能な例 (Yes) と、使用できない例 (No)	54 例中 23 例 4 %	54 例中 31 例 96 %	336 例中 157 例 47 %	336 例中 179 例 53 %
(2) 「動詞+たいです」、「動詞+たいと思います」の2つの表現は使用できるが、「動詞+ます」の表現が使用できない例 (Yes) と、使用できる例 (No)	54 例中 1 例 2 %	54 例中 53 例 98 %	336 例中 6 例 2 %	336 例中 330 例 98 %

分析項目	文例集		E-メール	
	Yes	No	Yes	No
(3) 「動詞+たいです」あるいは「動詞+たいと思います」という表現を、「動詞+ます」という表現に変更できるが、本来の意味から離れてしまう例 (Yes) と、離れない例 (No)	54 例中 18 例 33%	54 例中 36 例 67%	336 例中 110 例 33%	336 例中 226 例 67%
(4) 「動詞+たいと思います」を使用して適切ではない例 (Yes) と、適切な例 (No)	54 例中 0 例 0%	54 例中 0 例 100%	336 例中 0 例 0%	336 例中 0 例 100%
(5) 「動詞+たいです」が使用できない例 (Yes) と、使用できる例 (No)	54 例中 3 例 6%	54 例中 51 例 94%	336 例中 1 例 0.3%	336 例中 335 例 99.7%
(6) 「動詞+고 싶다」が使用できる例 (Yes) と、使用できない例 (No)	54 例中 13 例 24%	54 例中 41 例 76%	336 例中 22 例 7%	336 例中 314 例 93%

4. 2 アンケートの分析結果

(1) 披露宴の招待状に関する設問と分析結果

設問³：「つきましては、日ごろ公私にわたってお世話になっている皆様方に心からの感謝を込めて、兼備湾をクルージングする船上でのささやかな結婚披露パーティーに_____」

① 招待します。 ② 招待したいです。 ③ 招待したいと思います。 ④ 該当なし

披露宴の招待状では、回答者のほとんどが「お招きしたいと思います」の表現が一番丁寧な表現であると判断している。その理由として、最も多く挙げられていたのが、相手の意向を確認できていない段階で「お招きします」や「お招きしたいです」のような表現は不自然という意見であった。このことから、「～(し)たいと思う」という表現は、「表現主体」の「希望」を述べながらも、相手の意向を尋ねている役割を果たしていることが分かる。

(2) お歳暮の礼状に関する設問と分析結果

設問：「あせらずに、大切に_____」

³ ここでは紙面の関係上、アンケートの一部を掲載する。

- ① 育てます。 ② 育てたいです。 ③ 育てたいと思います。 ④ 該当なし

この項目では、「育てたいと思います」の次に「育てていきたいです」の表現が丁寧だという意見であった。「育てたいと思います」という表現には「表現主体」の強い「決意」や「希望」が感じられるが、他人の子供なので、このような表現は少し強引であるという意見が見られた。また、「育てていきたいです」という表現が丁寧だと判断した回答者の理由には、「育てます」や「育てたいです」という表現が使えないためという理由や、文章の流れから何となく自然に感じるという回答も見られた。「丁寧さ」の判断自体が個人それぞれの異なることが予想されるので、このような結果になったのではないかと考えられるが、「表現主体」の強い「希望」や「決意」を表明する場合には、「動詞+たいです」の形も不自然さをそれほど感じさせないことが確認できた。

(3) 年賀状・季節の挨拶に関する設問と分析結果

設問：「今年も、先輩のご指導を仰ぎつつ新たな目標へチャレンジして_____」

- ① 行きます。 ② 行きたいです。 ③ 行きたいと思います。 ④ 該当なし

年賀状で新年の「希望」や「意気込み」を述べる表現として母語話者が一番丁寧だと判断した表現は、「動詞+たいと思う」という表現であったが、「動詞+ます」や「動詞+たいです」の表現も丁寧だと回答した例も少なくはなかった。その理由として挙げられていたのは、強い「希望」や意気込みが感じられるので、「動詞+ます」や「動詞+たいです」の表現が適切との意見が多数あった。また、「動詞+たいと思う」という表現が丁寧だとする回答者の理由には、「希望」はしていてもどうなるかが分からないという理由や、理由は分からないが何となく丁寧に感じるとの意見も見られた。

(4) 就職の通知に関する設問と分析結果

設問：「地味ではありますが堅実な会社に入れて幸せです。今後精一杯努力して_____」

- ① 行きます。 ② 行きたいです。 ③ 行きたいと思います。 ④ 該当なし

就職の報告と新しい会社での意気込みを書いたこの例では、「動詞+たいと思います」が最も丁寧な表現であり、その次に「動詞+ます」の表現が丁寧だと答えた回答者が多かった。「動詞+ます」の表現が丁寧だと回答した人の理由としては、自分の問題（決定権が自分にある）であるので明確に発言したほうがよいとするコメントが多く見られ、「動詞+たいと思います」の表現が丁寧だと答えた回答者からは、控えめな表現である、または、まだこれからどうなるか分からない（就職前）段階であるからとの理由であっ

た。新しい就職先で「努力する」のような自分が決められる事柄でも控えめに表現することで、「理解主体」はこれを丁寧に受け取るという分析結果は筆者にとっては新しい発見である。

(5) 部下から上司への E メールに関する設問と分析結果

設問：「明日から 4 日間、_____」

- ① 頑張ります。 ② 頑張りたいです。 ③ 頑張りたいと思います。 ④ 該当なし

この項目は、出張に行った部下が上司へ送った報告の E-メール文で、出張先に無事着いたことを報告し、仕事に対する意気込みを書いたメールの内容であった。この項目では、「動詞+ます」を最も丁寧だと答えた回答者が多かった。その理由としては、「表現主体」の「意思」表明なので、「動詞+ます」の形が簡潔でよいとの意見が多かった。また、この項目では、前項の(1)から(4)までの項目とは異なり、「動詞+たいと思います」の形が丁寧だと答えた回答者は少なかった。このようなことから、「動詞+(し)たいと思う」という表現は汎用性が高い表現ではあるが、どのような状況でも使用できる表現ではないということが伺える。つまり、自己完結する動詞の場合には、「動詞+ます」の形で十分であると言えるのではないだろうか。

(6) 発表会での司会の言葉に関する設問と分析結果

設問：「それでは時間になりましたので、ただ今より〇〇の発表会を_____」

- ① 始めます。 ② 始めたいです。 ③ 始めたいと思います。 ④ 該当なし

この項目は筆者による作例であった。発表会や研究会などを始める言葉としてこのような表現がよく使われているように思えたので、アンケートの項目に入れた。また、改まった場面では、「動詞+たいと思う」の形が選ばれることが多いかどうかを確認することも目的にしたためである。この項目の結果では、「動詞+たいと思う」という表現が丁寧だと判断した回答者が多く、次に、「動詞+ます」の形が丁寧だとした結果であった。また、「動詞+たいです」という表現が丁寧だと判断した回答者は見られなかった。この表現が丁寧な表現として選ばれなかった理由としては、「始める」という行為が司会者だけの「希望」で左右されないこと、また、「始めたいです」という表現では相手(聞き手、読み手)への配慮が感じられないからではないだろうか。

4. 3 「当然性」の高い場面でのアンケートの分析結果

設定場面ⅠとⅡの「当然性」が高い場面で表れる「希望表現」についてのアンケート結果を分類した。この分類の中で一番注目される点は、これまで自分の「意思・希望」表現

において多く用いられていた「希望」表現+「～と思う」の形式の使用割合が設定場面Ⅱでは見られず、設定場面Ⅰでも6%と非常に少ないことである。

日本語では、自分の「私的領域」に属している事柄を直接的に述べたり、剥き出しにして表現すると、不自然に感じられることが多いために、多くの日本語母語話者は、「私はこうしてほしい」、「私はこうしたい」、「私はこうしたいんです」などの表現を用いることは少ない。そこで、このような場合には、自分が思う事柄の中に「～たい」や「～ほしい」を埋め込んだり、さらに文末には「思う」を付加して、「～したいと思う」、「～していただきたいと思う」、「～してほしいと思っています」などと表現して、「私的領域」に属している事柄を間接的に述べるなどの工夫により丁寧さを表している。李(2005 a)しかし、今回のアンケート結果を分析すると、「決定権」を持たないが自分の「希望」を言う場合や伝える時において、「当然性」が高いと判断され「希望」を述べることが可能である状況に置かれている場合には、「～と思う」を付加した「希望」表現は多用されない傾向があることが分かった。また、設定場面Ⅰでは「～(し)てください」のような指示表現も用いられていたのに対し、設定場面Ⅱではこのような表現は見られなかった。今回は、表現選択の理由まで考察の範囲に含めなかったが、図書館という組織に対して「希望」を述べる場合と、「ある個人」に対して「希望」を言う場合では意識の違いがあり、それが表現に影響したのではないかと分析できる。「決定権」を持たないが自分の「希望」を言う場合や伝える時において、「当然性」が高いと判断され「希望」を述べることが可能である状況に置かれている場合には、「～と思う」を付加した「希望」表現は多用されない傾向があることが分かった。

4. 4 日本語母語話者のインタビューの結果

インタビューの内容は、4. 2のアンケート内容と同様の設問である。

【設問1】婚約に関する手紙

この設問では、「お招きしたいと思います」という表現を選んだ人と、「該当なし」を選んだ人に二分された。

【設問2】お歳暮の礼状

この設問でも、設問1と同様に、「育てていきたいと思います」と「該当なし」の2つの意見に分かれた。文章全体としては、丁寧である、傲慢である、と感じると答えている。

【設問3】年賀状・季節の挨拶

この設問では、全員が「～たいと思います」の表現が最も丁寧な感じがすると答えた。

【設問4】就職の通知

この設問でも全員が「～たいと思います」という表現が最も丁寧な感じがすると答えた。

【設問5】部下から上司のE-メール文

「頑張りたいと思います」という表現を選んだ人と、「頑張ります」という表現のほうが「頑張りたいと思います」という表現より意欲が感じられる適切であるとする意見に分かれた。

【設問6】発表会での司会の言葉

この設問では全員が「始めたいと思います」を選んだ。司会者といえども、「始めます」と言ったのでは、強い表現になってしまうので、「始めたいと思います」という表現で「希望」を弱めたほうが良いとの意見であった。

5. 結論と今後の課題

本研究では「意思・希望」表現における丁寧さと「私的領域」との関係を考察するために、「意思」と「希望」表現の両方に使用できる「動詞+たいと思う」という表現の使われ方を文例集とE-メール文の両方から分析と考察を行った。

この結果、今回の一連の分析から、以下の11項目を結論とすることができる。

5. 1 「動詞+たいと思う」の使用が適した場面

- (1) 「動詞+たいと思う」という表現は、自分一人で判断や決定ができない場合に使用される。言い換えると、この表現は、考えや方針を示したり、あるいは「希望」をしてはいるが、決定権を持たない場合に使用される。
- (2) 「動詞+たいと思う」という表現の使用は、上下関係とは明確に関与しない傾向がある。今回の分析対象としたE-メール文では、上下関係にかかわらず使用されていた。「動詞+たいと思う」という表現の使用は、上下関係より、むしろ「場」や「媒体」との関係が深い。今回の分析資料では、結婚式という改まった「場」や、丁寧に書く傾向がある仕事関係のE-メール文でよく使用されていた。この表現は「改まった」場面でよく使用されることから丁寧さと関係していると言える。
- (3) 自分に決定権があるため自分一人で判断、決定が可能な場合や、すでに決定された事項を伝える場合にも使用される。

5. 2 「動詞+たいと思う」の使用が不適切な場面

- (1) 「動詞+たいと思う」という表現を自分が必ずやらなければならない状況下で使用することは適切ではない。

5. 3 「動詞+たいと思う」の使用でもたらされる効果

- (1) 「動詞+たいと思う」という表現は、「希望」を控えめにして丁寧さを出すことができる。言い換えると、この表現は、自分の意見をはっきりと述べることを避けて、提案するような形で使用することで、相手に働きかけ反応を待つことになり、配慮の効果が表れる。
- (2) 「動詞+たいと思う」という表現は、決定権の所在を明らかにしないことにより、相手（聞き手や読み手）に丁寧さを表すことができる。「決定権」が明らかに自分自身にあると判断される場合にも使用される。自分が指示できる立場に置かれた場合でも、「～（し）てください」と表現すると、指示や命令のニュアンスが出るので、「いただく」という表現を選ぶとともに、さらに「～たいと思う」を付加して「希望」を弱めていると考えられる。
- (3) 「動詞+たいと思う」の使用は、自分側の「私的領域」に属している事柄を剥き出しにしないことにより、相手（聞き手や読み手）に丁寧さを表すことができる。また、「表現主体」の現時点での「希望」を述べる段階に留める効果があり、相手に「表現主体」の「行動展開」の期待をさせない。(2)の「決定権」に加え、「意思」や「希望」の全てが自分側にある場合にも使用される。
- (4) 「動詞+たいと思う」の使用は、相手に何らかの配慮を示そうとする意図があり、これは丁寧さと関係していると考えられる。「動詞+ます」、「動詞+たいです」および「動詞+たいと思います」の表現が全て使用できる状況で、「決定権」も自分が持っているながらも「～たいと思う」という表現を選んでいることから、丁寧さと関係していると言える。
- (5) 「動詞+たいと思う」の使用は、指示、宣言しているようなニュアンスを無くすことができ、丁寧さを表すことができる。すでに決まった事柄について相手に伝える時に使用される場合がある。
- (6) 「動詞+たいと思う」の使用は、「表現主体」の「意思・希望」を前面に出さずに、控えめにすることで丁寧さが感じられる。この表現については、理由は明確ではないが、なんとなく丁寧な表現であると捉えている日本語母語話者も見られた。それだけこの表現は日本語に溶け込み馴染んでいる表現であることが言える。「～（し）たい」という表現で自分の「希望」を表明し、「～と思う」という表現で自分の「希望」を客観的に捉え直すことで、「希望」を弱めている。このように、自分側の「私的領域」に

属する事柄を前面に出さないことにより、丁寧に捉えられることもあることが確認できた。

5. 4 「当然性」が高い場面での「動詞+たいと思う」の使用

- (1) 「理解主体」(聞き手、読み手)に「表現主体」(自分)の「希望」を述べる「当然性」が高い場面では、「動詞+たいと思う」という表現よりも、「～(し)ていただきたい」、「～(し)てほしい」、「(し)てください」のような表現が多く見られ、「表現主体」の強い「希望」は「理解主体」への働きかけの意識から「要望」述べるようになる。[李(2005b)]

6. おわりに

本研究の目的とした、多くの日本語母語話者がある状況下において選択している表現について分析、考察を進めることで表現方法に関する工夫を見出すことにより、個別性から一般性が導かれ、丁寧な表現とは何か、ある状況下でよく使用される表現とは何かを明らかにすることができた。また、よく使用されている表現は、相手に丁寧さを表すために使用されている表現であるのか、それから、相手に対しどのような配慮が必要な場合に使用すれば良いのかなど、傾向を掴むことができた。これらの分析から得られた傾向を示すなど、今回の分析結果を日本語教育に生かすことは有効であると考えられる。

今後は、この表現に対する学習者の意識と、使用状況について調べ、学習者の意識(丁寧に話したい気持ち)が表現形式(形)として生かされているのかなど、学習者の意識と使用場面について母語話者の期待の面に視点をおき考察することも必要であろう。そのためには、この研究がそのための足がかりとなり、基礎データとして役立つものとなることを期待したい。

<参考文献>

- 李承禧 (2003) 「丁寧さと聞き手の私的領域に関する考察－意思・希望表現を中心に－」
早稲田大学日本語教育研究科修士論文
- _____ (2005a) 「私的領域に属する「意思」・「希望」表現と丁寧さの関係」早稲田大学
日本語教育学会 第5回研究発表会資料集
- (2005b) 「「自分の私的領域」における「希望表現」に関する考察－「当然性」の
観点から－」韓国語日文学会 国際学術大会・夏季学術大会発表論文集
- 小野正樹 (2001) 「「トと思う」述語文のコミュニケーション機能について」『日本語教育』
110号 日本語教育学会
- 蒲谷 宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店
- 蒲谷宏・待遇コミュニケーション研究室(2003) 「「待遇コミュニケーション」とは何か」
『早稲田大学日本語教育研究』2号 早稲田大学大学院日本語教育研究科
- 徐愛紅 (2001) 「希望表明形式による意思表示－日中両語を対照して－」『日本語教育』
109号 日本語教育学会
- 鈴木睦 (1989) 「聞き手の私的領域と丁寧表現－日本語の丁寧さは如何にしてなりたつか－」
『日本語学』8-2 明治書院
- 森山卓郎 (1992) 「文末思考動詞「思う」をめぐって－文の意味としての主観性・客観性－」
『日本語学』11巻8号 明治書院